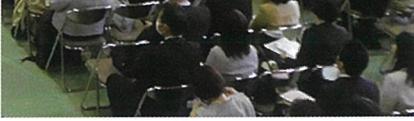


学校だより

Vol.

107

2019.12



Contents

- | | |
|-----------------|-------------|
| 02 校長 入学式 式辞 | 16 学生の活躍 |
| 04 三主事・専攻科長あいさつ | 20 クラブ活動紹介 |
| 05 各科・各コースの近況 | 22 TOPICS |
| 09 インターンシップ報告 | 24 体験入学を終えて |
| 14 学生の海外での活躍 | 25 新任教職員紹介 |
| 廃止措置研究 | 26 秋季校内体育大会 |



独立行政法人 国立高等専門学校 機構
福島工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Fukushima College



第五十八回 入学式 及び 平成三十一年度 編入学式 並びに第十六回 専攻科入学式 式辞

福島工業高等専門学校長 山下 治

新入学生二百三名、編入学生二名、専攻科生三十五名の皆様の福島高専への御入学をお慶び申し上げます。保護者の皆様には、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

そして、本日、多数の新入学生諸君を福島高専に迎えることができ、教職員、在校生一同、大変嬉しく思っています。

入学生の皆さん、皆さんが入学した高専は、高校のような中等教育機関ではなく、大学と同じ「高等教育機関」に位置付けられます。法律では、「高専は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」とされ、実践的・創造的技術者等の養成が重要なミッションとなります。教員は、教諭ではなく大学と同様に教授や准教授となり、入学生の諸君は本日から生徒ではなく学生になります。

この福島高専は、昭和三十七年、国立工業高等専門学校の第一期校として、他の十一の高専と共に創立されました。本日、入学した皆さんは本校への第五十八回目の入学生となります。この間、本校から、およそ八千名を超える創造性と実践性を併せ持つ卒業生・修了生が巣立ち、様々な分野で活躍しています。

本日、入学した諸君も、地域の震災からの復興と新しい日本や福島の創生のために、先輩たちに負けずに活躍が出来るよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねるとともに、人間力を育んで頂きたいと思います。

福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、「三つの教育理念」を定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間力の育成」です。我が国や地域の発展にどのように役立つかを考えるためには、最初に、幅広い教養と倫理観を身につけることが大切です。さらに、人生における様々な困難に打ち勝つ人間力を育成することが重要です。変化が著しい現代社会を生き抜くため、超スマート社会の中で、AIにとってかわられないためにも、皆さんも人間力の強化に心がけてください。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。卒業後、幅広い分野で活躍できる創造的、実践的な人間となるためには、基礎知識に裏打ちされた柔軟な発想や企画力を保有する人材となる必要があります。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、新たな産業を起こしうる「イノベーション人材」に育ってもらいたいと思っています。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化に伴う国際競争の激化に伴い、我が国を取り巻く状況は激変してきています。このような背景を踏まえ、皆さんには英語力を向上させることは言うまでもなく、国際的価値観をSDGs(ステナブル・デベロップメント・ゴールズ)などを通じて学んでもらいいます。異なる環境に住む相手の考え方を理解した上で、その相手とコミュニケーションをとれる能力を身につけて欲しいと思っています。



さて、この三つの教育理念を達成するため、皆さんにはこれから五年間、次の「三つの心構え」を念頭において勉強してください。

まず、第一に、「ルールを守る」。当たり前のことですが、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活出来るように努力してください。

第二に、「自ら学ぶ」。授業で教えてもらうだけではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保ってください。皆さんは、目的を持って、この福島高専に入学してきたはずです。その目的に向かって、自ら学習する姿勢を保ってください。高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。勉学の動機を失わずに、常に目標をもって能動的に勉強してください。

第三に、「挑戦する」。地域貢献やインターンシップそして課外活動にも挑戦してみてください。高専では、様々な活動に参加する機会が与えられます。文化部やスポーツ部に所属するのはもちろん、地域貢献に対するボランティア活動や海外で行われるインターンシップ・留学等にも参加し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけてください。

そしてなによりも、人は支えあって生きていくものです。お互い助け合いながら、高専生活を過ごすため「スマホではない」仲間を作ってください。高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間は、一生の友人になりますし、これらの友人によって皆さんの学習も円滑に進みますし、その結果として人間力も育されます。

以上に留意し、この福島高専で学ぶ五年間は必ずや皆さんのが実社会で生き抜く力を育んでくれます。日々、健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んでください。

次に、専攻科への入学生諸君、皆さんには、本科五年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科二年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学改革支援・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることができます。皆さんには、グローバル化の時代にあって、留学や海外インターンシップなどに挑戦し、国際的な活躍が可能な基礎を育てて頂きたいし、これから超スマート社会を生き抜けるよう、広く豊かな教養と人間力を更に磨いていただきたいと思います。そして、後輩達の良き手本となることを期待しています。

さて、福島高専の置かれている状況は、時代の変化とともに刻々と変化しています。現在、国は、福島・国際研究産業都市「イノベーション・コスツ」構想を策定し、復興のための整備を進めており、福島高専もこの流れに即応し地元の復興に貢献するための様々な事業に取り組んでおります。福島高専は、地域に根ざした高専として、地元の課題解決に貢献できる人材の育成にも力を入れていて、学生諸君はもちろん保護者の皆様にもご理解いただければ幸いです。

最後になりますが、新入学生諸君全員には、日々健康に気を付けながら、勉学や人間形成に励み、本校を巣立つまでに大きく成長して、将来は、国内はもちろん国際的にも活躍できる実践的・創造的技術者に育つことを祈念して式辞といたします。

平成三十一年四月四日
福島工業高等専門学校長 山下 治



三主事・専攻科長あいさつ



学生のうちの 精密な読解力を

教務主事

大槻 正伸

福島高専は、平成27～29年度で専攻科、本科の全体を改組し、あと2年間で全体の改新が完結した形となります。現在は改組後の教育課程を学年進行で実施しているところです。

さて、夏季休業明けの集会でも学生の皆さんにお話したところですが、現在は、AI(人工知能)の発達が著しく、人間の知的仕事がAIにとって代わられつつあります。将来はどうなるのでしょうか? 「AIに負けない子供を育てる」(新井 紀子著)によると、AIでも、しばらくは人間の「精密な読解力」は実現できないだろうということです。ということは、我々人間には、文章を正確に読み取る読解力が今後非常に重要なことです。

逆に、キーワードを統計的になんとなくつなげて読む「AI読み」をしていたのでは、今後社会での活躍は大変になるかもしれません。この能力は、学生のうちでないとなかなか身に付きません。学生諸君には、日ごろの勉強、研究を通してこの能力を身につけ、さらにたくさんのこと勉強していく、活躍してほしいと思います。

そのため、基礎学力充実の支援、実践力の向上にむけて、学校として努力していきたいと考えているところです。今後ともよろしくお願い致します。



「チーム福島高専」 展開中

学生主事

笠井 哲

学生主事3年目、一般教科の笠井です。よろしくお願ひいたします。本校は教職員と保護者の皆様だけでなく、地域人材の力も借り、「チーム福島高専」として問題の解決に当たっています。学校や家庭に加えて、「地域で学生を育てる」ことが目標です。

昨年から、「スクールソーシャルワーカー」(SSW)の朝日先生がチームに加わり、いじめや不登校の早期対応をサポートして頂いております。SSWは、外部機関との仲介もします。このたび、9月18日の集会後に、福島県警察本部の生活環境課サイバー犯罪対策室から講師を招き、「SNS・インターネットを安全に利用するため」と題する、全学生対象のSNS講習を実施しました。

講習では、福島県内のサイバー犯罪の現状、SNSに起因する被害者の現状、実際にあった事件例、SNS・インターネットを利用する際の注意事項について、パワーポイントを用い、わかりやすく説明して頂きました。30分の講習でしたが、事件現場で対応している警察官による話には重みがあり、学生たちは皆熱心に聴講していました。当日のスライドを学生たちに配信したので、保護者の皆様もご覧ください。



磐陽寮の これから

寮務主事

松江 俊一

磐陽寮では今年は46名の新入寮生を迎える205名の寮生で新年度をスタートしました。昨年度から年間行事予定表を事前に配付・掲示し、併せてメールによる周知も常態化することができ、寮行事(新入寮生歓迎会・スポーツ大会等)への参加率も高まり楽しく寮生活をスタートすることができました。

寮の運営面では、今年は管理のデジタル化を図っています。具体的には本年度前期後半から外泊許可願や朝点呼不在届などの提出書類の内容を自身のスマートフォン等の電子機器を用いて向こう6か月間にわたって確認することができるようになりました。このシステムの導入により自身の申請内容を確認することができ、無用な混乱を回避することができるようになりました。

さらに本年度中に朝点呼の方法をカードキーによる点呼システムを導入します。このシステムの利点は正確な点呼が行え、ある程度食事開始時間の分散化が図られ、学校へも7時台に登校するが可能となることです。早く登校したい寮生にもある程度対応できるようになると思います。

寮生からも改善点があれば知らせてもらいながら、本年度中に実験を終わらせ、来年から正式に施行していきたいと思います。



期待に応えて

専攻科長

原田 正光

専攻科長5年目になる都市システム工学科の原田です。今年度の専攻科入学者数は35名と、久しぶりに30名を超みました。準学士課程で5年間学んだ学生が、その先の進路として専攻科を選んでくれたことをうれしく、そしてありがとうございます。

専攻科への志望動機で多いのが、「生活環境をあまり変えずに研究を継続したい」という理由です。異なる環境への順応性や適応性は確かに必要ですが、環境を変えずに2年間の専攻科課程で次のステップへ向けた能力を身につけることはとても効率的だと思います。入学する学生も、それを期待しているかもしれません。

本校には、学生がこれから社会を生き抜くために、将来の職業に必要な教養や専門分野の知識・技術を習得させるという目的があります。同時に、高等教育機関として地域全体の教育支援や課題解決に貢献するという使命もあります。例えば、出前講座や学校開放事業、東日本大震災や原子力災害後の地域復興や環境回復のための各種受託事業、等々学外における取組も多く実施されています。専攻科の学生には、研究室スタッフとして研究に従事してもらったり、学外での地域貢献活動を手伝ってもらったりすること多く、私たち教員にとって専攻科生はとても頼もしい存在になります。

どうか今後とも学生が思う存分勉学に励み学生生活を送ることができるよう、保護者の皆様、地域の皆様には引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

各科の近況 [本科]



一般教科の近況

一般教科長 宮澤泰彦

高専は大学と同じ高等教育機関の範疇に分類されます。制度発足当初より「中学校からカレッジへ」を標榜し、各々志した分野の高度な学問に早くから触れて有為な技術者となることを目指す学校です。学習においては自学自修を、生活指導においては自主自律を旨とし、「生徒でなく学生なのだ」と折に触れ自覚を促してきました。学習達成度判定に妥協ではなく、課程修了認定の厳しさが、高等学校との大きな違いとなってまいりました。とは言え、義務教育課程を終えたばかりの学生たちにとり、いきなりの大人扱いは無理があります。手取り足取りの指導から徐々に自立へと向かう手ほどきをするのが、1,2学年時の担任を務める一般教科教員の大切な役割であると考えます。これまでも、学習生活面での悩みや疑問に応える面談に加えて、研究室前のコモンスペース等を活用して、授業外の少人数指導に多くの教員が取り組んできました。

けれども、少子化と幼少時からの塾通いなどの影響からか、自立に困難を抱える学生が近年とみに増え、より組織的な対応を求められる現実があります。物理の鈴木教授を中心に今年度からスタートした学習支援センターでは、主として理数系科目に困難を抱えている学生を対象に、放課後や休日、夏休み中の個別指導など、きめ細やかな対応をしております。現状ではまだ学生側の意識が十分でなく、せっかくの先生方による機会提供も存分には生かし切れておりません。入学した学生全員、一人も取りこぼすことなく高専の教育課程を全うしてもらうことを目標に、今後も一般教科一同頑張ってまいります。



機械システム工学科の近況

機械システム工学科長 高橋章

機械システム工学科となってから3年目となります。次年度からは4年生に「ロボット基礎」などの特徴ある科目が導入されます。現在そのための準備をしております。

教員の異動につきましては、昨年度まで「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の特命教員であった赤尾尚洋先生が4月に教授として着任しました。先生の専門は材料学で、機械工学科5年生の「材料強度学」をはじめ、4年生の「創作演習」などの授業を担当しております。先生は第3学年の学級担任や学生主事補の要職も担っております。

5年生の進路状況につきましては、進学希望者が20名でそのうち専攻科合格者が6名、まだ大学合格していない者が2名です。就職希望者は21名で、このうち地元企業内定者は1名、未定者数は1名(9/30現在)です。

9月下旬には、中学生対象の体験入学が例年より遅い時期に実施されました。1年生から5年生までの選ばれた学生がスタッフとして活躍し、成功裏に終えることができました。

今後も優秀な学生を育成するために機械システム工学科教員一同精励しますので、ご家庭からの御支援・御協力も引き続き宜しくお願い申し上げます。



電気電子システム工学科の近況

電気電子システム工学科長 鈴木晴彦

本科改組により「電気電子システム工学科」と名称変更し3年目となります。1年生から3年生までが学科改組後の新しい教育カリキュラムで進んでいます。学科の教育の柱を「電力情報」「制御情報」とし、低学年から段階的に学ぶ教育体制を整えつつ、また他分野との融合を教育・研究の両面で取り組んでおります。

毎年このタイミングで5年生の進路に関するお伝えしております。今年の5年生(42名)の進路希望は、昨年度と同様に概ね進学45%、就職55%であります。10月初旬の時点で、進学希望者の多くが進学先を決定しており、本校専攻科が10名、その他国公立大学が8名などあります。一方、就職希望学生の就職内定先の一例としては、東北電力、富士電機、ファナック、NHKテクノロジーズなど電気電子系企業をはじめ、花王、資生堂というように非電気系企業への内定も実現しております。

また9月末には、5年生の「卒業研究中間発表会」、また4年生では、当学科で18年間継続実施しているモノづくり教育「創作実習発表会」が実施されました。この「創作実習」は学科改組後の新しい教育カリキュラムの中で、令和2年度より、機械システム工学科4年生との「機械・電気系学科合同実習科目」としてスタートする計画です。現在、二学科の関係教員間で実施内容の最終調整をしているところです。

5年生の卒業研究も大詰めとなり、その研究成果を「電気学会」の研究会や全国大会をはじめ、「情報処理学会」、「東北地区若手研究者研究発表会」などで、約2割の学生が研究成果発表するでしょう。それぞれの専門分野を研究する大学教員や大学院生と同じ舞台に立って、自ら手掛けた研究がどのような役割を担っていたのかを知る瞬間でもあります。このような経験を通じ、「電気電子システム工学科」は、「クリエイティブな技術者の育成」に積極的に取組んでまいります。



各科の近況 [本科]

化学・バイオ工学科の近況



化学・バイオ工学科長 青柳 克弘

今年度も引き続き学科長を拝命しております。5年目になりますが、よろしくお願ひいたします。国家プロジェクトである「福島イノベーション・コート構想(新産業創出)」を支える人材育成を目的に物質工学科から化学・バイオ工学科に改組(名称変更)して3年目を迎めました。スムーズに授業内容を移行できるように学科内にワーキンググループを作り、議論しながら着実に実行しているところです。

次に、教員の異動ですが、柴田公彦先生が、高専・両技科大間教員交流制度を利用して4月1日から来年の3月31日までの1年間の予定で、長岡技術科学大学生物機能工学課程・専攻に准教授として赴任されました。教員交流とはいえ、高専・大学間の場合は以前の文部科学省内地研究員制度のようなもので、研究に没頭できる時間が増えることが予想されますので、多くの成果をあげられることを期待しております。

今年度の5年生36名は、22名が進学、14名が就職希望です。進学は、本校専攻科が7名で他の15名も海外留学の1名を除いて東京工業大学をはじめとした進学先が決定いたしました。また、就職も、化学・製薬メーカー等を中心全員が内定をいただきました。

後期が始まっていますが、化学・バイオ工学科では、引き続き時代の変化に即応できる、幅広い知識をもった人材の育成に教員一同取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

都市システム工学科の近況



都市システム工学科長 齊藤 充弘

都市システム工学科としての3年目のスタートも、学科教員の連携・協力の下、順調にスタートしております。昨年10月に橋一光先生、そして今年4月に丹野淳先生とともに助教としてお迎えし、学科教員10名の体制で教育・研究にあたっております。お二人の先生には構造系の授業を中心に専門科目をご教授いただくとともに、より学生に近くむきあつた教育・研究の展開を期待しております。

学生についても、元気な1年生が41名入学してきました。年度当初の学科長の話しあや都市システム概論の授業1コマでしかまだ接していませんが、元気があつて授業中の反応もよく、楽しく授業をすることができました。前期の終わりの9月28日(土)、29日(日)には体験入学がありました。そこで学科紹介をする5年生が元気よく笑顔であいさつをし、元気よく説明しており、来場した保護者の方々からも「人一倍、元気があつてよいですね」という声をかけられました。これは、決して事前に特別な指導をしたわけではありませんが、自然と笑顔で元気よく行動することができるところは、あらためて本学科のよいところだと認識しております。今後も、常に学生とむきあつた教育、研究、学生指導と地域連携に、学科スタッフが一丸となって取り組んでまいります。ご家庭におきましてもご支援、ご協力いただけますようよろしくお願ひいたします。

ビジネスコミュニケーション学科の近況



ビジネスコミュニケーション学科長 芥川 一則

台風19号とその後の大雪により被災されました学生及び保護者の皆様には謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

コミュニケーション情報学科最後の学生が5年生となりました。最後の卒業生の進路は進学希望18名、就職希望21名という内訳です。

進学では文系の学部への編入学希望者がほとんどを占めるため工学系と比較すると昨年同様遅い出足となっています。進学希望者の最近の傾向として「人文学部系」への進学が増加しています。これまで経済学部や経営学部などの社会科学系の学部がほとんどを占めておりました。近年はより広い進路選択が可能となっています。次年度は最初のビジネスコミュニケーション学科の卒業生を輩出することになりますが、その傾向はより広がると予想されます。

就職希望者は人手不足の影響もあり、順調に内定を得ています。今年の傾向は大手の企業を希望する学生が多いようです。地元就職でもその傾向があり安定志向が強い学年と認識しております。特にインフラ系と言われるガス・熱源供給企業の希望者が多く見受けられます。今年度で平成6年に設置されました「コミュニケーション情報学科」を閉じることになります。卒業生が有終の美を飾ることを期待するとともにその伝統が「ビジネスコミュニケーション学科」に受け継がれることを確信して近況報告とさせていただきます。

各コースの近況 [専攻科]

生産・情報システム工学コースの近況



生産・情報システム工学コース長 鄭 耀 陽

今年度の生産・情報システム工学コース(PIコース)への入学者は5名となっています。

そのうち1名は本校機械工学科卒業生で、ほか4名は本校電気工学科卒業生です。生産・情報システム工学コースとエネルギーシステム工学科コース(ESコース)は機械工学科と電気工学科卒業生が交わり、相乗効果が期待されています。この夏休みには、専攻科1年生諸君は、国内外でのインターンシップ(企業及び大学等)を活発に行っていて、インターシップ先は旭化成、JXTGエネルギー、日立製作所、エプソン、六興電気のほか、フランスの大学もあります。また、複数企業でインターシップを行った学生もいます。

PIコースの2年生は2名在籍しております。二人とも就職希望で早くも本命の就職先から内定を得られています。去年はPIコースの入学者は少なかったが今年度は5名の学生が入学し、コースに活気が戻りました。いま、コース全体は積極な特別研究・勉学活動を開催しており、今後も多角的視野を持つ優秀な卒業生を社会に輩出できるように努力して参ります。

エネルギーシステム工学コースの近況



エネルギーシステム工学コース長 伊 藤 淳

在学生の2年生4名に加え、機械工学科卒業生4名、電気工学科卒業生3名の新たな入学生7名を迎えた年度当初から、早くも半年が過ぎようとしています。心機一転して入学してきた1年生は、授業や実験、そしてインターンシップなど、さまざまな経験を経て、将来、エンジニアや研究者として活躍するための資質の向上が図られているものと確信しております。

また、2年生は研究活動が本格化するなか、修了後の進路に向けて大学院の入学試験や就職試験に臨み、大学院や企業への進路がほぼ決まります。今後、修了に向けて益々充実した研究が行えるよう、期待しています。

エネルギーシステム工学コースではエネルギーの有効活用や再生可能エネルギーの積極的な活用などの学習や研究を行っており、近年では環境発電や微小エネルギーによる電力発生についての研究にも取り組んでいます。その研究成果は国際会議や国内の各種学会やシンポジウム等で活発に報告されています。今後とも多くの学生が広い視野を持ち充実した学生生活や研究活動を送れるよう願っています。

化学・バイオ工学コースの近況



化学・バイオ工学コース長 梅 泽 洋 史

今年度の化学・バイオ工学コースへの入学者は6名で、新2年生9名と合わせて計15名が在籍しております。

2年生は8名が就職希望、1名が大学院への進学を希望しておりましたが、9月中に全員の就職、進学先が決定しました。今後は、学会での発表や校内の特別研究発表会を通じてプレゼンテーション能力を身につけつつ、専攻科の修了に向けて活発に勉学や研究活動に臨んで行ってくれるものと期待しております。

1年生はそれぞれ夏季休業中に県内外の一般企業や大学において2~3週間に渡るインターンシップを行ってきました。普段の高専生活では学ぶことができない貴重な体験を通じて得るものが多くかったのではないかと思います。また、今後の進路決定の参考としていただければと思います。この後12月に行われるインターンシップ報告会ではその成果をポスター形式で発表する機会が設けられていますので、しっかりと準備をして発表に臨んでもらいたいと思います。



各コースの近況 [専攻科]



社会環境システム工学コースの近況

社会環境システム工学コース長 菊地 卓郎

今年度よりコース長を拝命しております菊地です。どうぞよろしくお願ひいたします。

今年度は2年生7名(男子4名、女子3名)、1年生15名(男子11名、女子4名)が在籍しております。

2年生の進路は全員が決定しており、ゼネコン、建設コンサルタント、公務員、国立研究開発法人、鉄道と本コースからの主な就職先を網羅するような進路となりました。本校で学んできたことをベースにシビルエンジニアとして活躍できるように残りの学生生活でもさらに鍛錬し、修了を迎えることを期待しています。

1年生は夏季休業期間を中心にインターンシップを実施しています。将来の進路を見据えて、様々な分野で複数箇所の実習を行い、多くの刺激を受けて、帰校しているようです。この経験を今後の勉学、研究に活かし、希望する進路へ進んでいってほしいと思います。

1、2年生ともに研究成果を全国規模の大会や国際会議で積極的に発表しています。今後も引き続き、学生と教員が一丸となって、教育・研究に取り組んでまいります。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長（同コース長）湯川 崇

今年度は1年生と2年生がそれぞれ2名在籍しています。

1年生で実施されるインターンシップは、1名は夏季休業期間を利用してIT企業での10日間の研修を終了し、もう1名はトビタテ!留学JAPAN地域人材コースの支援を受けてスペイン・マドリードの企業で7週間、その後タイのタマサート大学において2週間の研修を終えて帰国しました。高専では学べない社会人としての経験を積むことや、海外での文化体験を通じて成長できたようです。

2年生の進路は2人とも就職で、それぞれが民間企業と公益法人から内定をいただいております。2年生は現在、修了に向けて特別研究の成果をまとめて論文を執筆しています。福島高専専攻科は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の特例適用専攻科の認定を受けており、学位試験を受験することなく専攻科修了時に学士の学位を取得することができます。

専攻科は2年間という短い期間に、インターンシップや特別研究、就職活動などやらなくてはいけないことがあります。全員が進路目標を達成して修了できるよう、教職員一丸となって支援していきたいと考えております。



インターンシップ報告

本校では、主に4年生と専攻科1年生に、校外実習・実務研修などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれの学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

カナダ・アメリカ研修

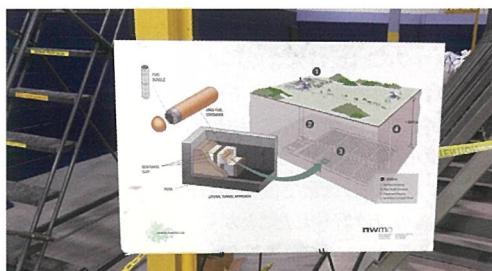
機械工学科4年 橋本 宏太

今回、文部科学省 国際原子力人材育成イニシアティブ事業～グローバルな視点から原子力関連企業とバックエンド事業を理解する実践的人材育成～の一環でカナダとアメリカ合衆国に計11日間、インターンシップに行ってきました。

実習テーマのもと、カナダではマクマスター大学とN.W.M.O (Nuclear waste management organization)の説明会に参加しました。マクマスター大学ではカナダの原子力業界における小型炉の開発や原子力動向の現状を学びました。マクマスター大学は研究のための原子炉を保有しており、実際に原子炉を見学することもできました。N.W.M.Oはカナダの地層処分の指揮を執っている企業で、説明会では実際に地層処分で用いられる技術を見たり、触ったりして体験することができました。

アメリカではJ.A.E.A (Japan Atomic Energy Agency)ワシントン事務所と在米日本大使館を訪問しました。J.A.E.Aワシントン事務所ではアメリカの政治動向、原子力の現状、原子力政策の動向を学ぶことができました。在米日本大使館では大使館の役割、活動などを学びました。ここでは日本、アメリカとも違う方針や日本とアメリカをつなぐ大使館の重要さを認識することができました。

このインターンシップを通してカナダとアメリカという日本とは言語も文化も違う国々を訪問し、それぞれの国の原子力に対する見方や考え方を理解することができました。さらに、日本とは異なる原子炉や地層処分方法を見学して日本の技術だけではなく、世界のあらゆる技術に目を向けることの大切さも学ぶことができました。今後はこの経験を活かし、視野を広げて生活ていきたいです。



インターンシップのすすめ

電気工学科4年

草野拓己



「インターンシップは絶対に行った方がいい！」先輩にも先生方にも口うるさく言われますが、インターンシップと言いつつ、インターンシップに行くことで就職に有利になる会社もあるため行かなきゃ損です。僕は株式会社シマノという、自転車の部品や釣り具の製作・販売を行っている会社の下関工場に行ってきました。シマノ製品は世界の自転車パーツのシェア8割を超えます。ママチャリの内装ギアもスポーツバイクのスプロケットもほとんどがシマノの製品です。まず、この会社にインターンシップを決めた理由は、自分自身自転車が好きで、どんな風に作られているのかが気になったからです。興味のある分野の会社であったこともあり、充実した5日間を過ごしました。下関工場では自転車の部品を生産しており、インターンシップでは6つの部署の見学を行いました。それぞれの部署の雰囲気や業務のイメージを肌で感じることができました。やはり同じ会社でもリラックスした雰囲気であったり、ピリピリした雰囲気であったり、驚くほど違いました。工場に関しては特に6s(整理・整頓・清潔・清扫・しつけ)が徹底されていました。これは、整理整頓することによって作業効率が上がるだけでなく安全性も高まるというもので、実生活でも使えます。また、高専OBの方に話を聞く機会もありました。高専卒だからといって現場の仕事しかないということではなく、むしろ技術関係の仕事を与えられる。といった話や、昇給・プライベートに関するなど聞きづらいことも回答して頂きました。

先輩からのアドバイスとしてインターンシップ先は興味のある分野の会社・大学がオススメです。また、複数箇所のインターンを考えている人は、交通費・ホテル代を負担してくれる企業をメインにすると自己負担が少なくなります。インターンシップが直接将来に影響しなくても行く価値があるので、自分に合ったインターンシップ先をじっくり考えてほしいと思います。

大学訪問を通して

物質工学科4年 高野修綺

私は東北大学大学院工学研究科浅井研究室で、9月2日から5日間実習を行いました。実習先では放射線計測のための熱蛍光ガラスを作製し、その特性を評価しました。また、私は東北大学化学バイオ工学科への編入学を志望しているのですが、進路について貴重なお話をいただくことができました。

熱蛍光ガラスとは、特殊な原料を用いて放射線量計測機能を付与したガラスです。これは放射線のエネルギーを蓄積し、加熱することで放射線量を読み取ることができます。ガラスは、主成分になる3種類の原料と、重要な役割を果たす元素の酸化物を混合したものを溶かして作製しました。初めに、3種類の原料をどのくらいの質量で混合すれば良いのかを計算したのですが、その計算方法は高専では経験したことが無く、大変勉強になりました。また、使用する元素の酸化物の違いで蛍光特性に違いがあり、興味深い結果が得られました。実習中は分からぬことが多いあったため、何度も質問をさせていただきました。そのひとつひとつに丁寧に答えてくださった先生や大学院生の方には大変お世話になりました。

研究室の先生がおっしゃっていたことのひとつに、「柔軟であること」があります。第一志望校に行けず他の場所に行くことになったとしても、そこで後悔して投げやりになるのではなくて、その場所に適応してベストを尽くすことが一番良いのです。準備は万全にしたのに志望校に合格できなかつたら、と私は考えてしまうことがあります。ですが、研究室の先生のお話を聞いて考えを改めました。今は、東北大学に行けなかったとしても他の道があるはずだということを頭の片隅において受験勉強に専念しようと考えています。



インターンシップから学んだこと

建設環境工学科4年 沼田 美織

私は今回、舞鶴高専社会基盤メンテナンス教育センター(以下iMec)と、東日本高速道路株式会社(以下NEXCO東日本)のインターンシップに参加させていただきました。

1カ所目のiMecのインターンシップでは、e-learningを用いた事前学習と、損傷探索自習や詳細調査手法の体験、橋梁点検実習などの5日間の講義を通じて、橋梁点検についての学習を行いました。最終日の学習到達試験では、学習の成果を活かし「准橋梁点検技術者」の資格を得ることができました。また、他高専生との交流も行われ、大きな刺激を受けました。

2カ所目のNEXCO東日本では、東北支社の仙台東管理事務所にお世話になり、本社とグループ会社の業務の体験、橋梁や路面、高速道路施設の見学など、充実した5日間を経験させていただきました。私は、様々な土木構造物に携わることができた高速道路事業に興味がありましたが、耐震への補強・補修工事や、維持管理のしやすさを考慮したものづくりなど、事業の持続可能性について知り、さらに魅力を感じることができました。そして、地域社会発展への貢献や、社員の方から伺った「24時間365日利用する人にとっての当たり前を、プラスにしながら管理していく。」というお客様のニーズを大切にする言葉に、社会人としての責任を感じました。また、多くの社員の方々に親切にして頂き、会社の温かい雰囲気を感じることができました。

2カ所のインターンシップを通して、自分の足りないところを見つけることができ、進路選択や学習の取組み方について深く考えることができました。インターンシップで得たことをこれから勉学に活かしていきたいと思います。

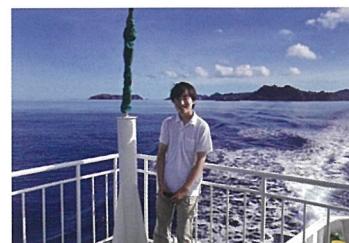
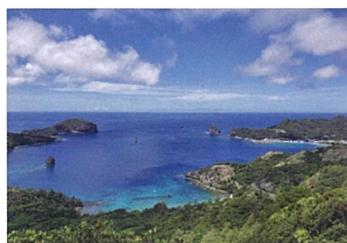


小笠原で見た自然環境保護のかたち

ビジネスコミュニケーション学科4年 清水 晴彦

私は小笠原諸島の父島で、林野庁関東森林管理局小笠原諸島森林生態系保全センターにお邪魔し、土日休日をはさむ10日間、東京農業大学ボランティア部の方々への外来植物駆除指導の補助や母島、兄島での固有森林生態系修復事業現場見学等の実習を行いました。東京・竹芝埠頭から船に乗り24時間という長い時間をかけ辿り着く小笠原諸島は、壮麗な海と内地(本州)とは異なる固有な生態系を有することから世界自然遺産に登録されており、自然環境保護に関しては高い緊張感で活動が行われています。そのような自然環境保護の最前線である小笠原諸島の実情、取組をこの目で見ることで、これからの人間と自然との関係性を考えていく上の知見を得られればと思い小笠原諸島での実習を希望しました。

このように、小笠原諸島では自然環境保護に関しては非常に高い緊張感で取組が行われています。外来植物駆除を行う際にも、ただ闇雲に外来植物を駆除すれば良いという訳ではありません。どれだけ固有植物へのダメージを抑えられるか、生態系への影響をいかに小さくできるかなど留意する点は非常に多く、自然環境保護活動は簡単に上手くいくものではありません。ですが、小笠原諸島では保全センターだけでなく東京都、環境省、小笠原村や東京農業大学など複数の省庁、自治体、団体等の協力関係が自然環境保護活動を支えています。つまり、小笠原諸島では横の連帯、縦の連帯が自然環境保護に密接に関係しているのです。人間と自然との関係がどんどん希薄となっていくほど、このような自然環境保護活動において縦横の連帯を保つのは困難になっていきます。だからこそ、自然環境保護活動に携わる人々の関係性を損なってはいけないと強く感じた10日間でした。



インターンシップで得た経験

産業技術システム工学専攻
化学・バイオ工学コース1年

野村 賢史

私はいわき市にある城北化学工業株式会社いわき工場で2週間のインターンシップに参加しました。城北化学工業株式会社はプラスチック、繊維、ゴムなどの耐熱性向上剤や酸化防止剤、医薬品の中間体といった幅広い分野で活用されるリン化合物を製造しており、近年は積み重ねた技術で電子材料等の新分野にも進出している会社です。私は、有機化学の研究を行っており、研究している分野が実際の製造現場ではどのように製造され世の中に役立っていくのか興味があり、この会社でのインターンシップを希望しました。

最初の1週間は、物質工学科4年生5人もインターンシップに参加して、製品の合成検討や製造方法の改善など様々な業務を行う技術課での実習となり、二人一組で代表製品の合成実験を行い、分析結果を各組ごとに報告会及び意見交換にて反省点や改善点を話し合いました。実験は授業でも行いましたが、現場で行う合成実験は目的が異なり応用されたもので違うものを感じました。また、このような意見交換は現場で、合成検討や改善するにあたり意外な着眼点や見落としが見つかるそうで、違う角度で見ることで新しい製法などを作り出すのに役立つなび、現場ならではの話を聞くことができました。

もう1週間は製品の品質管理や保証、分析などの業務を行っている検査課で代表製品の検査を行い、扱ったことのない機器で分析し結果を統計的にまとめるという実際にやってることを体験させて頂きました。検査課では、分析結果の規定が厳しく化学系の知識だけでなく数学的な知識も必要であることを学びました。

2週間の実習は、学校では得られない新たな刺激が得られ、貴重な経験となりました。この経験を生かして今後の学校生活にもより一層努力していきたいと思います。



災害と戦う

産業技術システム工学専攻
社会環境システム工学コース1年

田中 陸

就活時期が年々早まっていく現在、社会経験と自ら早々に行動することが大切だと感じていました。その為、この夏は研究機関に5日間、建設コンサルタント2社に18日間と計3社のインターンシップに参加しました。それぞれ地震動の解析業務、沿岸部の津波シミュレーション、河川の護岸調査と現在日本が直面している災害に対する業務を行わせて頂きました。日本は地震、津波、台風、洪水などが避けられない災害大国です。いかにしてその被害を最小限に抑えるのか、このような難しい現実に立ち向かっている社員の方々は最適な解決策を見つけ出そうとする姿勢があります。どの企業でも共通して言えることは様々な要素が絡み合った問題に対して、ある分野の偏った知識では解決できません。自分の分野に固執せず、広い視野で様々な分野に興味を持ち知ることが大切であります。その知識を柔軟に生かしているからこそビジネスとすることができると感じました。明らかな違いとしては社風です。積極的に課題に取り組ませて頂いた企業もあれば、現地に赴き見学を広げるようにして頂いた企業もありました。

専攻科は社会的認知度が大学に比べ低いのでこのような応募型インターンシップに自分から積極的に参加し、自分はもちろん専攻科についても企業の方や他のインターンシップ生に理解して頂ければ次世代に繋がると考えています。また、自分としては内容を理解することの大切さを改めて感じましたし、疑問は残さないで必ず理解する心掛けも作ることができました。

今後は、様々な分野を積極的に学んでいきながらさらに人ととの交流を広げることで今の自分にないものを得て積極的にチャレンジしていきたいと考えています。



インターンシップ協力企業等一覧

ご協力に感謝申し上げます

(種類別にアイウエオ順)

● 企業等

Arithmer株式会社、e.TEAM ANA、JR東日本コンサルタンツ株式会社、JXTGエネルギー株式会社、MHIさがみハイテック株式会社、NOK株式会社、NTTインフラネット株式会社、TDCソフト株式会社、あおみ建設株式会社、暁経営会計、旭化成株式会社、あすか製薬株式会社、アドバンスドプランニング株式会社、アルバイン株式会社、ウィルハウス株式会社、大阪ガス株式会社、オリエンタル白石株式会社、花王株式会社、カゴメ株式会社、株式会社FDC、株式会社FUJI、株式会社JALエンジニアリング、株式会社KSF、株式会社Mテック、株式会社アソナ大成基礎エンジニアリング、株式会社アセンド、株式会社アルビオン、株式会社大林組、株式会社大和田測量設計、株式会社小野工業所、株式会社オフィスエフエイ・コム、株式会社オリエンタルコンサルタンツ、株式会社クレハ、株式会社クレハ環境、株式会社ケーヒン、株式会社建設技術研究所、株式会社江東微生物研究所、株式会社資生堂、株式会社シマノ、株式会社常磐製作所、株式会社タンガロイ、株式会社長大、株式会社デンソー、株式会社東北村田製作所、株式会社ドリーム・ラボ、株式会社日立パワーソリューションズ、株式会社マイナビ、株式会社牧野フライス製作所、株式会社三井化学分析センター、株式会社メンバーズ、株式会社昭和設計、株式会社東コンサルタント、株式会社東日本計算センター、株式会社日本ピーエス、株式会社日立テクノロジーアンドサービス、株式会社富士通エフサス、河井順行税理士事務所、川田工業株式会社、キヤノン株式会社、キヤノンシステムアンドサポート株式会社、ケンコーマヨネーズ株式会社、中部電力浜岡原発、サントリーホールディングス株式会社、ジオ・サーチ株式会社、常磐共同火力株式会社、城北化学工業株式会社、ショーボンド建設株式会社、株式会社大林組、新常磐交通株式会社、セイコーペンソングループ株式会社、ソニーストレージメディアマニュファクチャリング株式会社、第一三共ケミカルファーマ株式会社、太陽工業株式会社、東亜合成株式会社、東京ガス株式会社、東京急行電鉄株式会社、東京電力株式会社、東芝プラントシステム株式会社、東新工業株式会社、東洋システム株式会社、鍋林株式会社、日東電工株式会社、日本オーチス・エレベータ株式会社、日本ケミコン株式会社、日本ゼオン株式会社、日本ハウズイング株式会社、日本ファブテック株式会社、ニュートン・サンザグループ、パイオニア設計株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、フードテクノエンジニアリング株式会社、富士通クライアントコン

ピューティング株式会社、富士電機株式会社、星光PMC株式会社、萬年山城願寺、三井金属鉱業株式会社、三井住友建設株式会社、三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社、三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社、八千代エンジニアリング株式会社、ユニ・チャームプロダクツ株式会社、長治観光株式会社、六興電気株式会社、旭化成株式会社、応用地質株式会社、花王ロジスティクス株式会社、株式会社スパイアップ・アカデミア、株式会社日本ピーエス、株式会社加地和組、株式会社海栄館、株式会社郡山測量設計社、株式会社小野工業所、株式会社大和田測量設計、株式会社東コンサルタント、株式会社東日本建設コンサルタント、株式会社富士ピー・エス、古河電池株式会社、五洋建設株式会社、三井住友建設株式会社、三興株式会社、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、三菱地所コミュニティ株式会社、株式会社大林組、川田工業株式会社、長谷川体育施設株式会社、東京都下水道サービス株式会社、東芝インフラシステムズ株式会社、東日本高速道路株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東北電力株式会社、東洋システム株式会社、日栄地質測量設計株式会社、日鉄環境株式会社、日東電工株式会社、日本原子力発電株式会社、日本工営株式会社、日本製鉄株式会社、日立造船株式会社、味の素食品株式会社、六興電気株式会社

● 官公庁・公益法人等

(一社)SBS国際産業人材育成センター、いわき市役所、(国研)日本原子力研究開発機構、(国研)産業技術総合研究所、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構、福島第二原子力規制事務所、横浜市役所、(公財)ふくしま海洋科学館、(公財)東京都都市づくり公社、国土交通省、楢葉町役場、福島県庁、北茨城市役所、林野庁、(公財)ジョイセフ

● 大学等

金沢大学、京都大学、長岡技术科学大学、高知大学、首都大学東京、千葉大学、筑波大学、東京大学先端科学技術研究センター、東北大學、福島大学、フランス技術短期大学、山梨大学、山形大学、舞鶴工業高等専門学校、豊橋技術科学大学、タイ・タマサート大学、Hylton Environmental、James Cook University



人材育成事業の取組

「トビタテ！留学JAPAN地域人材コース」と福島高専

福島浜通りグローバル人材育成事業推進協議会(会長:福島高専校長)は令和元年度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～の留学生6名(医療創生大学2名・東日本国際大学附属昌平高等学校1名・いわき光洋高校1名・福島高専2名)を激励するため、6月29日(土)にいわきワシントンホテル椿山荘において、いわき市・文部科学省・いわき商工会議所等からのご来賓の他、企業や同プログラムOG.OB等から約50名が出席して壮行会を開催しました。

留学生を代表して医療創生大学 菅部優さんが「将来は地元いわきの活性化に貢献したい。」と力強く挨拶があり、6名の派遣留学生から、それぞれ留学計画等が発表されました。

留学生は、アメリカ・イギリス・オーストラリア・スペイン・タイに留学します。

帰国後には報告会を令和2年2月に行う予定です。



廃止措置研究・人材育成事業の実施状況

廃止措置研究・人材育成推進室長
青柳 克弘

本校では、平成27年度より東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた廃止措置研究・人材育成事業に取り組んでいます。

初めに教育ですが、「廃炉創造学修プログラム」として今年度も昨年度同様、原子力発電基礎(1年生)、放射線基礎(2年生)、廃炉と社会(3年生)、廃炉ロボット概論(3年生)、廃炉工学(4年生)、原子力事故総論(5年生)の6科目を開講します。これらの科目では、延べ342名の学生が受講しております。また、夏季休業中には「海外サマースクール」が開催され、福島高専1名、旭川高専1名、茨城高専1名、小山高専1名、富山高専1名、香川高専1名の合わせて6名の高専生が参加しました。今年度は、ウクライナの切尔ノブイリ、オーストリアのIAEA等を訪問しました。それから、12月14日(土)、15日(日)には日本原子力研究開発機構楳葉遠隔技術開発センターにおいて、第4回廃炉創造ロボコンを開催します。すでに、高専16校、17チームおよびマレーシア工科大学1チームの合わせて18チームの参加が決定しております。

8月20日(火)～21日(水)にはロボコン参加者を対象に楳葉サマースクールが開催され、本番前の予備教育として東京電力福島第一・第二原子力発電所の視察や会場における廃炉技術研修を行いました。

次に研究ですが、全国高専のネットワークを利用して廃炉に関する基盤研究を進めています。年に2回、成果報告会を行っており、8月23日(金)には本校大会議室において開催しました。



切尔ノブイリ市内への入り口



切尔ノブイリ石棺の前で

地域貢献

「令和元年度第10回中学生英語スピーチコンテスト」開催される

去る8月3日(土)に本校開放事業第10回中学生英語スピーチコンテストが本校の会議室を会場に開催されました。この大会は、国際語である英語で自己表現することができます重要になってきており、英語での表現力を向上させ、国際感覚を養う手助けになることを期待して毎年開催しております。今年は県内の8中学校から10名が参加して実施されました。

演題は自由で、5分以内のスピーチで競い合いました。スピーチ内容のレベルが高く、原稿作成の段階で相当の努力がなされたと推測されます。またそれを多くの人の前で説得力を持って発表できるようにするために、かなり練習を積んできているようでした。発音、パフォーマンスなど出来栄えは、個人的に多少差はありましたがあ、どの参加者も一つの事をやり遂げたという達成感を強く感じているようでした。閉会式の後、一緒に写真を撮ったりして、交流を深めていました。



出前授業

本校では、地域貢献事業の一環として、小中学校や公民館等で出前授業を行っています。授業内容は再生可能エネルギーや水環境といった生活に根差したものや、小中学校でも2020年度から実施されるプログラミングや英語の授業を、座学だけではなく体験的に学べるよう実施しています。再生可能エネルギーについては毎年要望が多く、今年度も5回実施しました。エネルギーの現状や様々な再生可能エネルギーについて説明した後、発電装置の実演や、ブロックを用いたソーラーカーの製作も行い、理解を深めてもらいました。再生可能エネルギーの授業に限らず、体験型の授業の中で子供たちが楽しそうに取り組んでいる姿が印象的でした。



第56回東北地区高専体育大会結果

東北地区大会
福島大会

■ 陸上競技（男子）

学校対抗		
100m	吉田 廉 (5C)	第 1 位
"	今野 涼太 (1T)	第 2 位
"	北郷心太郎 (2T)	第 3 位
200m	矢吹 一真 (2C)	第 4 位
"	吉田 廉 (5C)	第 1 位
"	石井 翔馬 (2C)	第 2 位
400m	佐藤 優斗 (3C)	第 6 位
"	赤倉 翼 (3B)	第 2 位
"	齋藤優太郎 (2E)	第 4 位
1500m	目黒 光樹 (3T)	第 6 位
"	石川 舞 (2M)	第 1 位
5000m	目黒 光樹 (3T)	第 1 位
"	石川 舞 (2M)	第 8 位
110m H	箱崎 優大 (1M)	第 1 位
"	阿部 聖大 (3M)	第 5 位
4×100m R (阿部(聖)・矢吹・今野・吉田)		第 1 位
4×400m R (吉田・矢吹・箱崎・佐藤(優))		第 1 位
走高跳	牧野 陸 (1M)	第 1 位
"	荒木 敦吾 (1M)	第 6 位
走幅跳	遠藤 謙介 (2M)	第 4 位
"	今野 涼太 (1T)	第 5 位
"	アチャラアチャム イリック (2M)	第 6 位
三段跳	アチャラアチャム イリック (2M)	第 1 位
"	遠藤 謙介 (2M)	第 3 位
砲丸投	五十嵐拓海 (5E)	第 2 位
"	智田 徹郎 (3M)	第 3 位
"	阿部慎太郎 (4M)	第 5 位
円盤投	阿部慎太郎 (4M)	第 3 位
"	智田 徹郎 (3M)	第 7 位
やり投	五十嵐拓海 (5E)	第 2 位
"	志賀 智樹 (5E)	第 3 位
"	大串 玲央 (2T)	第 5 位

■ 陸上競技（女子）

学校対抗		
100m	安齊 初佳 (2C)	第 1 位
"	熊本 咲英 (3B)	第 1 位
"	白石 遥菜 (1B)	第 2 位
800m	武藤 咲希 (5B)	第 4 位
"	大竹 美緒 (3T)	第 1 位
100m H	上野 美咲 (3B)	第 5 位
"	畠山 茉鉛 (3B)	第 1 位
4×100m R (畠山・安齊・上野・熊本)		第 2 位
走幅跳	安齊 初佳 (2C)	第 2 位
"	畠山 茉鉛 (3B)	第 3 位
やり投	熊本 咲英 (3B)	第 2 位
"	上野 美咲 (3B)	第 3 位

秋田大会

■ 卓球（男子）

団体戦		
シングルス	谷本 純一 (5E)	第 2 位
"	大石 竜平 (2C)	第 1 位
"	小野 智生 (5K)	ベスト 8
"	赤津 陽斗 (3E)	ベスト 8
"	松本 拓樹 (2T)	ベスト 8
"	山本 崇史 (5K)	ベスト 16
"	緑川 詩音 (2C)	ベスト 16
"	大沼 翼 (4M)	3回戦敗退
ダブルス	谷本 純一 (5E)	1回戦敗退
"	赤津 陽斗 (3E)	1回戦敗退
"	山本 崇史 (5K)	2回戦敗退
"	大石 竜平 (2C)	2回戦敗退

■ 卓球（女子）

団体戦		
シングルス	岡部あゆみ (5I)	第 1 位
"	吉田 菜摘 (3B)	第 1 位
"	浅川 胡桃 (1B)	第 4 位
"	渡邊 順子 (2B)	ベスト 8
ダブルス	岡部あゆみ (5I)	1回戦敗退
"	浅川 胡桃 (1B)	第 1 位
"	吉田 菜摘 (3B)	第 2 位
"	渡邊 順子 (2B)	第 2 位

一関大会

■ 硬式野球

トーナメント	福島 17-2 鶴岡	第 2 位
	福島 8-0 秋田	
	福島 1-12 仙台名取	

■ バスケットボール（男子）

予選リーグ	福島 68-85 秋田	第 3 位
	福島 40-96 仙台名取	

■ バスケットボール（女子）

トーナメント	福島 21-95 秋田	第 4 位
	福島 41-111 八戸	

八戸大会

■ 水泳（男子）

学校対抗		
100m自由形	大和田直希 (4E)	第 1 位
"	山口 聖二 (5I)	第 6 位
400m自由形	馬上 隼 (1E)	第 7 位
"	小針 聰真 (2C)	第 1 位
800m自由形	小針 聰真 (2C)	第 3 位
100m背泳ぎ	鈴木 悠磨 (1M)	第 4 位
200m背泳ぎ	鈴木 悠磨 (1M)	第 4 位
"	箭内 武敏 (4M)	第 5 位
"	矢澤 啓佑 (4K)	第 7 位
100m平泳ぎ	佐々木龍之介 (5M)	第 1 位
"	脇田 優希 (4M)	第 3 位
200m平泳ぎ	脇田 優希 (4M)	第 3 位
"	福原 匠流 (2M)	第 5 位
100mバタフライ	吉田 拓実 (5K)	第 1 位
"	福原 至音 (5C)	第 5 位
200mバタフライ	吉田 拓実 (5K)	第 1 位
200m個人メドレー	佐々木龍之介 (5M)	第 2 位
4×100mリレー (吉田・大和田・佐々木・鈴木)		第 3 位
4×200mリレー (吉田・小針・佐々木・鈴木)		第 1 位
4×100mメドレーリレー (佐々木・脇田・吉田・大和田)		第 1 位

■ 水泳（女子）

学校対抗		
50m自由形	櫻井 友香 (5I)	第 1 位
"	柳内 紅葉 (4B)	第 3 位
100m自由形	柳内 紅葉 (4B)	第 4 位
"	櫻井 友香 (5I)	第 2 位
"	柳内 美瑠 (1T)	第 3 位
200m自由形	河治 早紀 (4B)	第 6 位
"	柳内 美瑠 (1T)	第 1 位
50m背泳ぎ	渡邊 まこ (2B)	第 2 位
100m背泳ぎ	河治 早紀 (4B)	第 1 位
100m平泳ぎ	猪俣 里奈 (3T)	第 2 位
"	渡邊 里奈 (5I)	第 4 位
200m平泳ぎ	猪俣 里奈 (3T)	第 5 位
"	渡邊 里奈 (5I)	第 1 位
50mバタフライ	菅野いちご (1T)	第 2 位
"	工藤 風彩 (1C)	第 4 位
100mバタフライ	工藤 風彩 (1C)	第 3 位
"	菅野いちご (1T)	第 2 位
200m個人メドレー	渡邊 まこ (2B)	第 1 位
4×50mリレー (櫻井・渡邊(ま)・河治・柳内(紅))		第 1 位
4×100mリレー (櫻井・工藤・菅野・猪俣)		第 1 位
4×50mメドレーリレー (河治・渡邊(涼)・渡邊(ま)・柳内(紅))		第 1 位

■ バレーボール（男子）

予選リーグ	福島 2-1 一関	第 3 位
決勝トーナメント	福島 2-0 秋田	
	福島 1-2 仙台名取	

■ バレーボール（女子）

予選リーグ	福島 2-0 一関	第 1 位
	福島 2-0 秋田	
決勝トーナメント	福島 2-0 八戸	
	福島 2-1 鶴岡	

仙台名取大会

■ サッカー	福島 0-1 秋田	予選敗退
予選リーグ	福島 1-1 一関 (PK5-4)	

■ バドミントン(男子)

団体戦	川音 裕也 (5M)	第1位
シングルス	薄葉 健大 (3M)	第1位
"	佐々木 笠 (3C)	第3位
"	三浦 伊織 (4E)	1回戦敗退
"	三本菅由泰 (2M)	1回戦敗退
ダブルス	川音 裕也 (5M)	2回戦敗退
"	門馬 捷太 (5M)	第1位
"	中田 陸斗 (4M)	1回戦敗退
"	若松 恒佑 (2M)	1回戦敗退
"	薄葉 健大 (3M)	2回戦敗退
	佐々木 笠 (3C)	

■ バドミントン(女子)

団体戦	草野 優夏 (3B)	第1位
シングルス	根本 真央 (3C)	第1位
"	赤塚 優花 (3B)	第2位
"	綱川 理子 (2T)	1回戦敗退
"	斎藤 優香 (3C)	2回戦敗退
ダブルス	赤塚 優花 (3B)	第1位
"	斎藤 優香 (3C)	
"	草野 優夏 (3B)	第2位
"	根本 真央 (3C)	
	菅野 日和 (5C)	
	江尻 彩菜 (5I)	第3位

鶴岡大会**■ ソフトテニス(男子)**

団体戦	鶴沼 大翔 (4K)	予選敗退
ダブルス	新妻 佳祐 (4E)	2回戦敗退
"	鈴木 涼真 (4E)	
"	猪狩 智也 (5K)	2回戦敗退
"	原田 真登 (2C)	
"	石河 蒼尉 (4K)	1回戦敗退
"	三浦 雄之 (3C)	
	鈴木 大我 (3E)	1回戦敗退

■ ソフトテニス(女子)

ダブルス	大和田 夏美 (3T)	第1位
"	猪狩 澄玲 (3T)	
"	沼田 美織 (4K)	予選リーグ敗退
■ 柔道	青木麻里乃 (4K)	
個人戦 (60kg級)	福田 健斗 (3C)	2回戦敗退
個人戦 (73kg級)	剣持 京太 (3C)	第3位
個人戦 (90kg級)	八巻 広陵 (4C)	1回戦敗退

仙台広瀬大会**■ テニス(男子)**

団体戦	蓬田 世羅 (4K)	3回戦敗退
シングルス	長谷川俊輔 (5C)	2回戦敗退
"	高橋 知輝 (3M)	2回戦敗退
ダブルス	根本 拓武 (4K)	
"	宮崎 慧 (5I)	1回戦敗退
"	蓬田 世羅 (4K)	
	長谷川俊輔 (5C)	1回戦敗退

■ テニス(女子)

団体戦	井上 舞 (5I)	第3位
シングルス	小堺 愛紗 (5C)	2回戦敗退
"	小林 夢奈 (4C)	1回戦敗退
ダブルス	井上 舞 (5I)	
"	小林 夢奈 (4C)	第2位
"	小堺 愛紗 (5C)	
	鈴木 琴音 (5C)	第3位

■ 剣道(男子)

団体戦	矢吹 風真 (3E)	第6位
個人戦	戸井田凌征 (3M)	第3位
"	佐久間魁皇 (1M)	4回戦敗退

■ 剣道(女子)

団体戦	金澤 唯奈 (2C)	第3位
個人戦	渡辺 愛弓 (2B)	1回戦敗退
"	宗像 海帆 (3C)	3回戦敗退

第54回全国高専体育大会結果**■ 陸上競技**

広島商船高専／広島広域公園陸上競技場・エディオンスタジアム広島		
(男子)		
学校対抗		
110mH	箱崎 優大 (1M)	第4位
4×400mR (赤倉・吉田・今野・箱崎)		第6位
走高跳	牧野 陸 (1T)	第7位
三段跳	アチャラ アラム エリック (2M)	第5位
砲丸投	五十嵐拓海 (5E)	第6位
やり投	五十嵐拓海 (5E)	第1位
"	志賀 智樹 (5E)	第8位
(女子)		
学校対抗		第8位
100m	安齊 初佳 (2C)	第6位
800m	武藤 咲希 (5B)	第2位
3000m	武藤 咲希 (5B)	第4位
4×100mR (畠山・安齊・上野・熊本)		第5位
走幅跳	安齊 初佳 (2C)	第7位

■ バレーボール

吳高専／呉市総合体育馆・シンシンヨーオークアリーナ		
予選リーグ		
福島 2-0 鈴路		
福島 2-1 吳		
福島 1-2 鈴鹿		
決勝トーナメント 福島 0-2 新居浜		
第3位		

■ 剣道部

大島商船高専／光市総合体育馆		
(男子)		
個人戦	矢吹 風真 (3E)	1回戦敗退
(女子)		
個人戦	金澤 唯奈 (2C)	2回戦敗退

■ ソフトテニス

大島商船高専／岩国市運動公園テニスコート		
(女子)		
ダブルス	大和田 夏美 (3T)	第1位
"	猪狩 澄玲 (3T)	

■ 水泳

広島商船高専／広島市総合屋内プール・ひろしんビッグウェーブ		
学校対抗		
第13位		

■ バドミントン

大島商船高専／キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター		
(男子)		
団体戦	川音 裕也 (5M)	2回戦敗退
シングルス	川音 裕也 (5M)	2回戦敗退
ダブルス	川音 裕也 (5M)	2回戦敗退
(女子)		
団体戦	根本 真央 (3C)	第3位
シングルス	草野 優夏 (3B)	第3位
"	草野 優夏 (3B)	1回戦敗退
ダブルス	根本 真央 (3C)	2回戦敗退
"	赤塚 優花 (3B)	
	齊藤 優香 (3C)	1回戦敗退



第65回福島県高等学校体育大会結果

■ 陸上競技（男子）

110mH	箱崎 優大 (1M)	第4位 (東北大会出場)
400mH	佐藤 優斗 (3C)	第2位 (東北大会出場)
3000mSC	目黒 光樹 (3T)	第7位 (東北大会出場)
三段跳	マチャラアムエリック (2M)	第4位 (東北大会出場)
	遠藤 謙介 (2M)	第7位

■ 陸上競技（女子）

棒高跳	上野 美咲 (3B)	第1位 (東北大会出場)
	熊本 咲英 (3B)	第3位 (東北大会出場)
三段跳	安齊 初佳 (2C)	第7位

■ ソフトテニス（男子）

団体戦		
ダブルス	三浦 雄之 (3C)	2回戦敗退
	鈴木 大我 (3E)	2回戦敗退

■ ソフトテニス（女子）

ダブルス	大和田夏美 (3T)	第3位 (インターハイ出場)
	猪狩 澄玲 (3T)	

■ 硬式テニス（男子）

団体戦		
シングルス	石橋 凜 (3C)	2回戦敗退
ダブルス	石田 壮太 (3C)	1回戦敗退
"	高橋 知輝 (3T)	1回戦敗退
	石橋 凜 (3C)	1回戦敗退
	中嶋 見祐 (3K)	1回戦敗退

■ 硬式テニス（女子）

ダブルス	岩崎由芽花 (2B)	1回戦敗退
	他校の学生とのペア	

■ 卓球（男子）

学校対抗戦		
シングルス	赤津 陽斗 (3E)	2回戦敗退
ダブルス	赤津 陽斗 (3E)	ペスト16
	松本 拓樹 (2T)	3回戦敗退

■ 卓球（女子）

学校対抗戦		
シングルス	浅川 胡桃 (1B)	2回戦敗退
ダブルス	渡邊 順子 (2B)	ペスト32
	浅川 胡桃 (1B)	2回戦敗退

■ 剣道（男子）

団体戦		
個人戦	矢吹 風真 (3E)	2回戦敗退

■ 空手道（男子）

個人形	石井 啄翔 (3C)	2回戦敗退
個人組手	石井 啄翔 (3C)	1回戦敗退

■ 水泳（男子）

50m自由形	高橋 昂大 (2T)	予選敗退
"	土屋 裕 (3T)	予選敗退
100m自由形	馬上 隼 (1E)	予選敗退
400m自由形	小針 聰真 (2C)	予選敗退
100m背泳ぎ	小針 聰真 (2C)	予選敗退
200m背泳ぎ	鈴木 悠磨 (1M)	予選敗退
100m平泳ぎ	福原 匠流 (2M)	予選敗退
200m平泳ぎ	福原 匠流 (2M)	予選敗退
100mバタフライ	鈴木 悠磨 (1M)	予選敗退
400mフリーリレー (小針、福原、馬上、鈴木)		予選敗退
800mフリーリレー (馬上、土屋、小針、鈴木)		予選敗退
400mメドレーリレー (小針、福原、鈴木、馬上)		予選敗退

■ 水泳（女子）

50m自由形	渡邊 まこ (2B)	予選敗退
100m自由形	渡邊 まこ (2B)	予選敗退
200m自由形	工藤 順彩 (1C)	予選敗退
"	菅野いちご (1T)	予選敗退
100m平泳ぎ	猪俣 里奈 (3T)	予選敗退
200m平泳ぎ	猪俣 里奈 (3T)	予選敗退
100mバタフライ	工藤 順彩 (1C)	予選敗退
"	菅野いちご (1T)	予選敗退
400mフリーリレー (工藤、渡邊、猪俣、菅野)		予選敗退

■ バドミントン（男子）

団体戦		
シングルス	薄葉 健大 (3M)	2回戦敗退
"	三本管由泰 (2M)	1回戦敗退
"	若松 恒佑 (2M)	1回戦敗退
ダブルス	薄葉 健大 (3M)	1回戦敗退
"	佐々木 基 (3C)	1回戦敗退
"	若松 恒佑 (2M)	1回戦敗退
	三本管由泰 (2M)	1回戦敗退

■ バドミントン（女子）

団体戦		
シングルス	草野 優夏 (3B)	2回戦敗退
"	赤塚 優花 (3B)	2回戦敗退
"	根本 真央 (3C)	1回戦敗退
"	齋藤 優香 (3C)	1回戦敗退
ダブルス	草野 優夏 (3B)	1回戦敗退
"	根本 真央 (3C)	1回戦敗退
"	赤塚 優花 (3B)	2回戦敗退
	齋藤 優香 (3C)	2回戦敗退

■ 弓道（男子）

個人	清水 琢磨 (3E)	準決勝進出
"	川澄 将弘 (3M)	予選敗退

■ 弓道（女子）

個人	清水 紗弓 (3B)	予選敗退
"	大石 愛弓 (2T)	予選敗退

東北高等学校体育大会結果

◎第74回東北高等学校陸上競技大会

男子		
110mH	箱崎 優大 (1M)	準決勝敗退
400mH	佐藤 優斗 (3C)	第6位 (全国大会出場)
三段跳	マチャラアムエリック (2M)	予選敗退
女子棒高跳	上野 美咲 (3B)	第8位
	熊本 咲英 (3B)	予選敗退

◎第62回東北高等学校ソフトテニス選手権大会

個人戦		
ダブルス	大和田夏美 (3T)	2回戦敗退

全国高等学校総合体育大会結果

◎第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

男子400mH	佐藤 優斗 (3C)	予選敗退
---------	------------	------

◎令和元年度全日本高等学校ソフトテニス選手権大会

女子ダブルス	大和田夏美 (3T)	2回戦敗退
--------	------------	-------

各協会・連盟主催大会等

◎ハイスクールジャパンカップソフトテニス2019福島県代表選考会

女子シングルス	猪狩 澄玲 (3T)	ベスト8
女子ダブルス	大和田夏美 (3T)	
	猪狩 澄玲 (3T) Z	ベスト16

◎第15回福島県シングルスマッチソフトテニス選手権大会

女子シングルス	大和田夏美 (3T)	予選リーグ敗退
---------	------------	---------

◎第72回福島県総合体育大会 県大会

■陸上競技（男子）

400mH	佐藤 優斗 (3C)	第1位 (東北総体出場)
110mH	箱崎 優大 (1M)	第4位

■陸上競技（女子）

棒高跳	上野 美咲 (3B)	第2位 (東北総体出場)
"	熊本 咲英 (3B)	第7位

■ソフトテニス（男子）

個人戦		
ダブルス	三浦 雄之 (3C)	
	鈴木 大我 (3E)	2回戦敗退

■ソフトテニス（女子）

ダブルス	大和田夏美 (3T)	3回戦敗退
	猪狩 澄玲 (3T)	

■卓球（男子）

団体戦		
シングルス	赤津 陽斗 (3E)	ベスト8
"	松本 拓樹 (2T)	ベスト32

■卓球（女子）

シングルス	吉田 菜摘 (3B)	ベスト64
"	浅川 胡桃 (1B)	ベスト64

■水泳（男子）

50m自由形	馬上 隼 (1E)	予選敗退
"	大和田直希 (4E)	予選敗退
"	福原 至音 (5C)	予選敗退
"	土屋 裕 (3T)	予選敗退
"	高橋 昂大 (2T)	予選敗退
"	鈴木 拓将 (3M)	予選敗退
200m自由形	鈴木 悠磨 (1M)	予選敗退
400m自由形	吉田 拓実 (5K)	予選敗退
"	馬上 隼 (1E)	予選敗退

50m背泳ぎ

"	小林 基晃 (5C)	予選敗退
"	今野 裕斗 (5E)	予選敗退
"	福原 至音 (5C)	予選敗退
"	矢澤 啓佑 (4K)	予選敗退
"	箭内 武敏 (4M)	予選敗退
100m背泳ぎ	小林 基晃 (5C)	予選敗退
50m平泳ぎ	脇田 優希 (4M)	予選敗退
"	福原 匠流 (2M)	予選敗退
"	青木 亨論 (4C)	予選敗退
100m平泳ぎ	閑内 悠輝 (1E)	予選敗退
50mバタフライ	鈴木 悠磨 (1M)	予選敗退
"	福原 至音 (5C)	予選敗退
"	吉田 拓実 (5K)	第6位
200m個人メドレー	吉田 拓実 (5K)	予選敗退
"	小針 聰真 (2C)	予選敗退

■水泳（女子）

50m自由形	渡邊 まこ (2B)	予選敗退
"	河治 早紀 (4B)	予選敗退
"	柳内 紅葉 (4B)	予選敗退
50m平泳ぎ	猪俣 里奈 (3T)	予選敗退
50mバタフライ	菅野いちご (1T)	予選敗退
"	工藤 凪彩 (1C)	予選敗退

■バドミントン（男子）

シングルス	三本菅由泰 (2M)	1回戦敗退
"	若松 恒佑 (2M)	2回戦敗退
ダブルス	三本菅由泰 (2M)	2回戦敗退

■バドミントン（女子）

シングルス	佐々木和奏 (3C)	1回戦敗退
ダブルス	川口 らら (1B)	1回戦敗退

◎第101回全国高等学校野球選手権福島大会

2回戦敗退

◎第98回全国高等学校サッカー選手権福島大会

1回戦敗退

各種大会等の結果

■写真部

【コンテスト】

第25回全国高等学校写真選手権大会（写真甲子園2019）応募

■吹奏楽部

吹奏楽コンクール県大会大学の部	銀賞
第41回定期演奏会	主催

■将棋部

第55回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会	
個人戦	久保木啓丞 (1E)
"	遠藤 雅明 (3C)
"	鈴木 練 (3M)
"	齋藤 剛瑠 (2C)
"	柳沼 真人 (2E)

第32回全国高校将棋竜王戦福島県大会

個人戦	齋藤 剛瑠 (2C)	ベスト16
"	遠藤 雅明 (3C)	2回戦敗退
"	久保木啓丞 (2E)	2回戦敗退
"	柳沼 真人 (2E)	1回戦敗退
"	松本 蒼矢 (2E)	1回戦敗退

第26回全国高等専門学校将棋大会

団体戦	齋藤 剛瑠 (2C)	ベスト8
"	遠藤 雅明 (3C)	
"	松本 蒼矢 (2E)	
個人戦 男子	瀧田 大地 (5M)	2回戦敗退
"	山野辺健太 (4M)	1回戦敗退
"	三瓶 遥貴 (4M)	予選敗退
"	久保木啓丞 (1E)	予選敗退

■茶華道部

いわき学校茶道連盟第46回合同発表会 参加

■演劇部

いわき地区高校演劇発表会 参加

■エネルギー研究会

ワールド・グリーンチャレンジ2019 ソーラーカー部門 総合 エンジョイクラス 2位 14位

■分子生物学愛好会

第31回知能ロボットコンテスト2019 (チャレンジーズコース)
ロボット名 omunirice チーム名 堀越くまさん Na 野場 なお (3C) 準優勝
(マスターZコース)
ロボット名 URY's チーム名 堀越くまさん NNNNN 門井真理乃 (5C)
一條祐里奈 (5C) 鈴木 琴乃 (5C) 日本ロボット学会特別賞

頑張っています、ソフトテニス部 －創部以来初のインターハイ出場－

ソフトテニス部顧問 青柳克弘

ソフトテニス部の顧問になってから、在外研究員、内地研究員で不在の3年間を除くと33年が過ぎました。学校の仕事の関係で数年間現場から離れていましたが、3年前からまた戻ってきて第1顧問の伊藤淳先生のお手伝いをしております。

部活の存続さえ危ぶまれた時代を何度も過ごしてきた者からすると、特にここ十数年くらいは本当に良く頑張っているなという感じを持ちます。熱心に練習に取り組んでおり、その成果が各種大会の成績にも表れています。以前、学校だよりのクラブ活動紹介で平成26年度までの成績を紹介しておりますので、今回はそれ以降の5年間について述べさせていただきます。最近は特に女子の活躍が目立ちます。今年度は福島県高等学校体育大会女子個人戦で大和田・猪狩ペアが3位入賞し、創部以来初のインターハイ出場を勝ち取りました。

- 平成27年度：東北地区高専体育大会男子団体戦3位、男子個人戦 武藤・山口ペア優勝（全国大会出場）、
女子個人シングルス 古川千尋3位
- 平成28年度：福島県高等学校体育大会男子個人戦 吉田・乙山ペアベスト16（東北大会出場（上位10ペア））、
東北地区高専体育大会男子団体戦3位、女子個人シングルス 古川千尋3位
- 平成29年度：東北地区高専体育大会男子団体戦2位、女子個人戦 大和田・猪狩ペア2位（全国大会出場），
女子個人戦 古川・福田ペア3位、全国高専体育大会女子個人戦 大和田・猪狩ペア3位
- 平成30年度：東北地区高専体育大会男子団体戦3位、女子個人戦 大和田・猪狩ペア優勝（全国大会出場），
女子個人戦 大坊・青木ペア3位、全国高専体育大会女子個人戦 大和田・猪狩ペア優勝
- 令和元年度：福島県高等学校体育大会女子個人戦 大和田・猪狩ペア3位（インターハイ出場），
東北地区高専体育大会女子個人戦 大和田・猪狩ペア優勝（全国大会出場），
全国高専体育大会女子個人戦 大和田・猪狩ペア優勝（大会二連覇）

以前から練習試合や合同練習等でお世話になっていた東日本国際大学附属昌平高校の井坂靖先生に昨年度途中から専任コーチとしてご指導いただいております。井坂先生は何度もインターハイに生徒を出場させた経験があり、選手の育成には定評のある著名な方です。昌平高校との合同練習等も多くなり、選手のレベルアップにもつながっているものと思われます。

以上のように部員は頑張っているのですが、現在の一番の悩みは部員数の減少です。女子は高体連の大会で団体戦に出場できない状況にあります。全面オムニコートで恵まれた環境で練習できますので、多くの学生の入部を期待しています。



エネ研が参戦する
ワールドグリーンチャレンジとは

エネ研指導教員 豊島晋



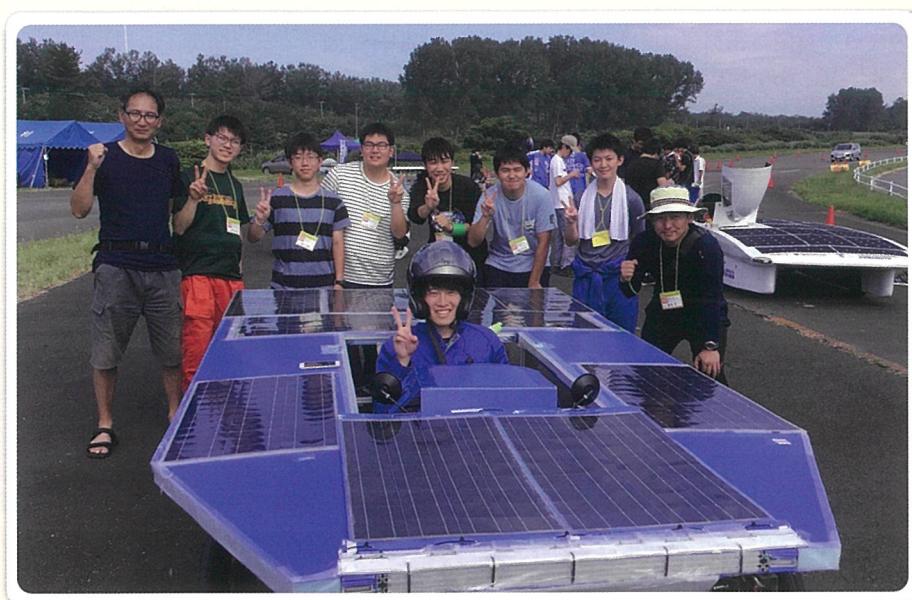
車体フレームのTIG溶接



車検時の様子

エネルギー研究会は1992年に創部された部活である。その主な活動内容は、ソーラーカーの設計・製作、ワールドグリーンチャレンジ(WGC)と呼ばれるソーラーカーラリーに参戦することである。エネルギー研究会もロボット技術研究会や分子生物愛好会と同じように“モノづくり”を主たる活動にする部活の一つである。“モノづくり”的活動において、ロボット技術研究会や分子生物愛好会と違う点は、人が乗って操縦する車両を作るところにある。したがって、人が乗つても安全でラリー走行に耐えられる頑丈な車体を設計・製作する技術が必要である。部員達は、こうした実践的な技術について、伊藤先生、松本先生、高野先生、技術職員といった多くの方の支援を受けながら学んでいる。活動場所は主に電気電子システム工学科棟や実習工場といった場所であるため、低学年生が活動を目的とする機会がなく部員9名のほとんどが高学年である。今回は、こうしたあまり知られていないエネルギー研究会の紹介を兼ねて、エネルギー研究会が参戦しているWGCソーラーカーラリーについて紹介する。

WGCとは秋田県大潟村で開催されるソーラーカーラリーである。1993年から毎年開催されており、福島高専のエネルギー研究会もほぼ毎年参戦している。こうしたソーラーカーや電気自動車によるレース形式の大会は、次世代モビリティとして新たな価値を創造する環境配慮型イベントとして注目されており全国各地で開催されている。WGCとその他のレースの1番の違いは、大会期間の長さである。多くのレースは1日で終了しタイムなどを競うが、WGCはラリーであるため1周25kmの専用コースを3日間走行した周回数を競う。(天候にもよるが優勝チームは43周走行している)また、多くのレースでは有名なサーキットのコースを走行するが、WGCでは凹凸のある通常舗装の専用道路を走行する。こうした違いから他のレースに比べて、路面の負担を考慮した車両設計・製作技術、3日間を走り切るエネルギー管理技術が必要とされる。エネルギー研究会は、こうした要求に対して毎年準備を行いWGCに挑戦することで実践的な技術力を高めている。



WGCスタート前

郡山市と連携協定を締結しました

さる5月20日(月)、郡山市役所において、「郡山市と独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校との包括連携に関する協定書」の調印式を行いました。

この協定は、相互の資源を有効に活用した協働活動の推進により、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的としています。

締結式後には記念講演会が開催され、「SDGsに向けた福島高専の取組」と題し、山下校長からは国内外でのSDGs推進に向けた本校取組の紹介、芥川副校長からは福島高専の学生が小学生向けに作成した教材を使ったSDGsの説明等について講演を行いました。講演会には約140人が来場しました。(当日の様子は福島中央テレビ、福島テレビで放映)

※SDGs(Sustainable Development Goals):2015年に国連総会で採択された「持続可能な発展のための2030アジェンダ」に盛り込まれている、世界を変えるための17の目標と169のターゲット(達成基準)。



福島高専 JSTS2019を開催しました

去る7月7日(日)から12日(金)の間、JRいわき駅前の「Latov(ラトブ)」で独立行政法人高等専門学校機構(高専機構)が主催となり、「Japan Seminar Technology for Sustainability 2019」(JSTS2019)を本校が開催しました。

JSTS2019では、高専機構が提携するタイ王国のタマサート大学が「リーダーに不可欠なグローバルコミュニケーション能力と、多様な集団で協働する能力の向上を目指す」を目的に、全国の高専や長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学、海外の大学から61名の学生が参加しました。

今回の主要プログラムは、

- ・国連広報センター所長 根本かおる氏による基調講演
- ・長岡技術科学大学 勝身麻美コーディネーターによる導入ワークの講義と実演
- ・1泊2日で猪苗代町にある「磐梯青少年交流の家」での親睦・交流会
- ・成果発表としてポスタープレゼンテーション

閉会式では、谷口功高専機構理事長からベストポスター賞とベストプレゼンテーション賞の授賞式が行われました。

送別会では、民族衣装や浴衣姿で出席する参加者もおりました。また、参加者による出し物が披露され会場は笑いに包まれました。

10月には、タイ王国タマサート大学が主催し、同国で開催される「ISTS2019 タイ」での再開を約束し合い別れを惜みました。



JSTS2019基調講演の様子



JSTS2019集合写真

キャリアカフェを開催しました

福島高専では、地元企業と学生の懇談の場として、平成28年度から年に約5回程度「キャリアCafe」を開催しています。「Cafe」の名のとおり、コーヒーを飲みながら企業の方々と学生が触れ合う企画で、毎回、和やかな雰囲気で行われてます。「企業説明会」とは雰囲気が異なり、本音で話せるものもあって、企業の方々からは、会社の紹介だけでなく、就職活動の助言や社会の動向や採用する学生へのニーズなど、幅広い話がなれます。学生からは「参加してよかったです」「今後の考え方の参考になりました」と言った回答があります。

学生にとっては地元企業を知る場、就職活動に向けて意識を高める場となっています。

学校として学生の地元就職率の向上にも取り組んでおり、こういった場を通して地元への関心を高めてほしいと考えております。



広野町での未利用資源の探索について

福島高専は、連携協定を締結している広野町に復興拠点を開設し、連携して活動を行っています。その取り組みが(公財)福島イノベーション・ココスト構想推進機構の大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・ココスト構想推進事業に採択され、広野町の未利用資源の探索と資源化、放課後理科教室などの活動を行っています。

未利用資源として広野町のシンボル、みかんに注目し、みかんから有用微生物を探査する活動を行っています。微生物の単離、培養、遺伝子解析などは十亀教員(化学・バイオ工学科)と研究室の学生が研究テーマとして取り組んでいます。さらに、同町立広野小学校の6年生を対象にした微生物に関する特別講義(放課後理科教室)を実施し、微生物の知識を持った小学生が微生物資源としてのミカンを採取するなどの活動を行っています。今年は、採取した微生物から酵母菌とみられる7種類の菌を見出すところまで行いました。採取した微生物の遺伝子解析の結果、新株を発見し、広野町の復興を願って「Hirono」を加えた名前を広野小の子供たちが命名してデータベースに登録しました。

微生物の採取と解析だけでなく地域活動としての取り組みは、今年7月にポルトガルで開催されたたんぱく質の解析に関する国際会議で専攻科生がポスター発表を行うなど研究、教育の面でも評価される効果が出てきています。今後は、産業化、社会実装を目標に、農業などの産業分野でも活動する計画です。



令和元年度 体験入学を終えて

入学者対策専門部会長 根本昌樹

令和元年度の体験入学は、学校行事等の都合で、例年の8月から時期を移動させ9月28日(土)、29日(日)に開催されました。両日とも例年より涼しい環境で実施され、トラブルも無く無事に終了しました。今年度の参加者は総勢714名で、昨年度から26名増えました。中学生の大変満足した表情が印象的でした。今年の各学科のデモ実験テーマと内容等を紹介します。

機械システム工学科

「機械工学の魅力を知ろう」というテーマで、
①機械工作実習紹介
②身の回りにあるものでモノづくりで簡単に作れる
おもちゃの製作を行いました。



都市システム工学科

「あなたも地球のお医者さん」をテーマに、
学科紹介や、模型を用いた「まちづくり」の
体験を行いました。



電気電子システム工学科

「電気・電子・情報の世界へようこそ 見る・触る・感じる」というテーマで授業や研究内容の紹介。
①ドローンとロボットを動かす②電気の力を体験しました。



ビジネスコミュニケーション学科

「Be ambitious! ビジコミの世界を体験してみよう」というテーマで、動画を用いた学科紹介や、クイズ形式でビジコミを知って貰いました。



化学・バイオ工学科

「化学・バイオ工学科をのぞいてみよう!」というテーマで、「化学・バイオ工学科」を具体的に楽しくイメージ出来るよう、すぐにできる化学実験の体験を行いました。



交流コーナー

休憩時間を利用して、
①学校・学科の紹介 ②入試相談 ③ミニ研究紹介
④各種ロボコン出場実演 ⑤課外活動の紹介
⑥電気自動車の展示を行いました。



新任教職員紹介



都市システム工学科・助教 丹野 淳

本年4月1日付けで都市システム工学科に着任いたしました丹野淳と申します。いわき市出身で、本校の本科および専攻科を卒業いたしました。大学院進学後、宮城県庁に入庁し、東日本大震災からの復旧・復興の最前線で、復興予算の獲得や用地買収、現場監督など多岐にわたる土木行政業務に5年間従事して参りました。座学では学べない実学から知り得た知識や経験を後輩に伝えたいという強い思いで、再び本校の門をたたきました。

学生の皆さんのお進路の夢実現のため、できる限りの精一杯のアドバイス、サポートを行える教員を目指し、私自身も日々研鑽を積んで参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。是非、気軽に研究室にお越しください。



学生課・学生課長 大野 速太

はじめまして。4月1日付で本校に着任いたしました大野と申します。出身は大阪ですが、仙台に7年半、八戸に15年近く住んでおりましたので、東北はなじみの深い土地です。今は家族を残して単身赴任生活をしており15年ぶりの一人暮らしをしています。

これまで柔道やアイススケート、水泳などのスポーツをやっておりましたが、ここ数年は遠ざかっていて、すっかり体がなまってしまったので、休日は小名浜近辺をウォーキングするなどして過ごしています。

採用以来高専一筋で仕事をしてきましたので、高専の業務はひと通り理解しているつもりですが、知識のアップデートなくして成長なしと心得て、一から学ぶつもりで努めてまいりますので、何卒よろしくお願ひいたします。



学生課・看護師 高橋 春美

保健室看護師の高橋春美と申します。平成26年10月より非常勤でお世話になっておりましたが、本年4月1日より常勤看護師として着任いたしました。

以前は、総合磐城共立病院(現・いわき市医療センター)で14年間、その後、個人病院で数年勤務していました。今まで経験し、学んだ知識や技術をフルに活用して、皆さんの学校生活が、毎日、心も体も元気に楽しく過ごせるよう、お手伝いできたらと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

心配なことや困りごと…などがあったときには気軽に保健室にいらしてください。



学生課・課員 赤木 芳子

私は、平成26年11月から本校学生課教務係で国際交流担当やグローバル高専事業の有期雇用事務補佐員として従事させていただいておりましたが、この4月から学生課教務係の係員の任を拝命致しました。主にグローバル化推進センターの事務処理を担当しており、学生の派遣受入れ、留学プログラムの手配、協定校の連携等の手続きを行っています。勤続年数が経っておりますが、業務にも慣れているように見られることもありますが、まだまだ至らない点が多く、先生方、他部署との連携が必要と日々痛感しております。皆様のご指導を仰ぎながら初心を忘れず、素直に受け止めて精進して参る次第でございます。また、業務に誇りと責任を持ち、柔軟に進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。



令和元年度 校内体育大会

学生主事補 渡辺 賢治



令和元年9月18、19日、爽やかな秋晴れの下、福島高専校内体育大会が盛大に行われました。18日は空模様が若干心配されましたが、翌日には秋晴れのもと開催することができました。なお、サッカーチームや野球部を中心とする有志の学生達が大会前にグラウンド整備してくれたおかげで、予定通り晴天時の種目を行うことができました。

競技にはサッカー、バスケットボール、ソフトボール、バレーボールを始め、ドッジビー、綱引き、玉入れ、学年対抗リレーなどの種目も含め、全部で8種目行いました。特に学年対抗リレーでは、全学生がグラウンドに集結し大いに盛り上りました。各種目の成績順位に応じて得点を加算したところ、クラス対抗では、1年は電気電子システム、2年は都市システム、3年は都市システム、4年は電気、5年は専攻科がそれぞれ優勝し、総合では建設環境（都市システム）が優勝となりました。

本大会の企画運営は、学生会の体育大会実行委員会（委員長：4年機械工学科 脇田優希君）と各クラスの体育委員が中心となり、学業やクラブ活動の合間を見て、準備を進めてきました。大会当日は多少のタイムテーブルの遅れはあったものの、楽しくも有意義に終えることができました。





令和元年度(平成31年度) 行事予定(後期)

2019年

11月

- 24日(日) ……全国高専ロボットコンテスト2019
(両国国技館)
- 26日(火)～12月5日(木)
……後期中間試験期間
- 30日(土) ……専攻科社会人入試

12月

- 7日(土)～8日(日)
……第16回 全国高専デザインコンペティション2019(東京)
- 11日(水) ……学生会役員選挙
- 21日(土) ……閉寮
冬季休業開始(1月5日(日)まで)
- 28日(土) ……学校閉鎖期間(1月3日(金)まで)

2020年

1月

- 5日(日) ……開寮
- 7日(火) ……授業開始
- 10日(金) ……CBT試験
(工学系4学科1, 2, 3年生対象)
TOEIC Bridge試験
(2年・1B対象)
他学生は臨時休業
- 17日(金) ……専攻科特別研究I発表会(1年)
- 18日(土) ……推薦入試・寮スポーツ大会
- 24日(金) ……専攻科特別研究II発表会(2年)

2020年

1月

- 25日(土) ……卒業研究発表会(電気)
- 25日(土)～26日(日)
……第13回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
(国立オリンピック記念青少年総合センター(東京))

2月

- 6日(木)～13日(木)
……後期期末試験
- 16日(日) ……学力入試
- 20日(木) ……後期授業最終日
- 21日(金)～26日(水)
……補講期間
- 25日(火) ……卒業研究発表会(建設)
- 26日(水) ……卒業研究発表会(機械)
- 27日(木) ……卒業研究発表会(物質)(コミ・学外)
- 28日(金) ……卒業研究発表会(物質)(コミ・学外)

3月

- 3日(火) ……終業式・寮送別会
- 4日(水) ……閉寮
- 19日(木) ……卒業証書・修了証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)
※17日(火)～20日(金)開寮
- 27日(金) ……開寮

入学試験の日程

本科

● 一般推薦及び課題達成型推薦による選抜

- ・出願期間 令和2年1月6日(月)
～1月8日(水)
- ・面接日 令和2年1月18日(土)
- ・内定通知日 令和2年1月23日(木)
- ・入学確認書提出期限 令和2年1月31日(金)

● 学力による選抜

- ・出願期間 令和2年1月27日(月)
～1月31日(金)
- ・検査日 令和2年2月16日(日)
- ・合格発表日 令和2年2月21日(金)
- ・入学確認書提出期限 令和2年3月2日(月)

● 帰国子女特別選抜

- ・出願期間 令和2年1月6日(月)
～1月31日(金)
- ・検査日 令和2年2月16日(日)
- ・合格発表日 令和2年2月21日(金)
- ・入学確認書提出期限 令和2年3月2日(月)

専攻科

● 社会人特別選抜

- ・出願期間 令和元年11月20日(水)
～22日(金)
- ・試験実施日 令和元年11月30日(土)
- ・合格発表日 令和元年12月5日(木)
- ・入学確認書提出期限：令和2年1月10日(金)

編集後記

令和が始まり最初の学校だよりの編集となりました。教育研究、地域貢献活動の合間に縫って、原稿を寄せさせていただいた皆様、ありがとうございました。これまで経験してこなかったような自然災害も頻発するようになり、スクールカレンダー通りに学内外の活動を繰り広げることができない場面も幾つかありました。将来の世代もこれまで私たちが受けた自然や社会の恵みを享受できるような持続可能な社会の構築に貢献できる人材の育成が重要な使命だと痛感させられました。